

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】平成 18 年 10 月 5 日 (2006.10.5)

【公開番号】特開 2004-141642 (P2004-141642A)

【公開日】平成 16 年 5 月 20 日 (2004.5.20)

【年通号数】公開・登録公報 2004-019

【出願番号】特願 2003-208493 (P2003-208493)

【国際特許分類】

A 6 1 F 13/49 (2006.01)

A 6 1 F 13/56 (2006.01)

A 6 1 F 5/44 (2006.01)

A 6 1 F 13/58 (2006.01)

A 6 1 F 13/15 (2006.01)

A 6 1 F 13/551 (2006.01)

A 6 1 F 13/514 (2006.01)

【F I】

A 4 1 B 13/02 H

A 6 1 F 5/44 H

A 6 1 F 5/44 T

A 4 1 B 13/02 J

A 4 1 B 13/02 M

A 4 1 B 13/02 F

【手続補正書】

【提出日】平成 18 年 8 月 18 日 (2006.8.18)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 3

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 3】

特許文献 1 に開示のおむつは、肌当接側に位置する透液性表面シートと、肌非当接側に位置する不透液性裏面シートと、表裏面シートの上に介在する吸液性コアとから構成されている。このおむつは、前胴周り域の側部と後胴周り域の側部とが縦方向へ間欠的に並ぶ多数の熱融着線を介して固着されている。このおむつには、胴周り開口と一対の脚周り開口とが形成されている。処理用テープタブは、接着剤を介して裏面シートの外面に固着された固定部と、固定部に連なって固定部の外面に重なる自由部とを有する。自由部は、その内面に接着剤が塗布されており、接着剤を介して固定部の外面に剥離可能に仮着されている。処理用テープタブには、プラスチックフィルムが使用されている。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 0

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 1 0】

前記前提における本発明の特徴は、前記裏面シートが、繊維不織布から形成され、前記不織布の仕上用油剤の含有率が、該不織布を構成する繊維重量当たり 0 . 0 4 w t % 以下 (J I S L 1 0 1 5 7 . 2 2 ; 溶剤抽出法に準じて測定) であり、前記テープタブが、接着剤を介して前記裏面シートの外面に永久的に固着されていることにある。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0015

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0015】

おむつ10Aは、胴周り開口17と一対の脚周り開口18とを有するパンツ型に形成され、互いに対向する前胴周り域14および後胴周り域16と、それら胴周り域14, 16の間に位置する股下域15とを有し、かつ、コア13の両端縁13aの外側に位置して横方向へ延びる両端部19と、コア13の両側縁13bの外側に位置して縦方向へ延びる両側部20, 21, 22とをそれぞれ有する。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0016

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0016】

胴周り開口17及び脚周り開口18は、前後胴周り域14, 16の両側部20, 22が合掌状に重なり合い、側部20, 22側縁近傍において縦方向へ間欠的に並ぶ複数の熱融着線23により連結されている。おむつ10Aは、股下域15の両側部21がおむつ10Aの横方向内方へ向かって弧を画くことで、股下域15が前後胴周り域14, 16よりも幅狭く形成されている。そのため、おむつ10Aは、前後胴周り域14, 16の連結を解き、縦方向へ展開したときの平面形状がほぼ砂時計型を呈する。両端部19と両側部20, 21, 22とでは、表面シート11と裏面シート12とが互いに重なり合った状態で、それらシート11, 12の内面どうしが接着剤（図示せず）を介して断続的に接合されている。

【手続補正 5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0021

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0021】

感圧性接着剤30, 31には、それぞれ公知のホットメルト型接着剤やアクリル系接着剤、ゴム系接着剤を使用することができる。また、剥離剤には、それぞれ公知のシリコン樹脂系やフッ素樹脂系、アミノアルキド樹脂系、ポリエステル樹脂系のものを使用することができる。

【手続補正 6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0024

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0024】

テープタブ26は、おむつ10Aを廃棄する廃棄処理用として利用することの他に、装着したおむつ10Aの胴周り寸法Nを調節する寸法調節用としても利用することができる。おむつ10Aの胴周り寸法Nを調節するときは、図示はしていないが、テープタブ26の第1および第2自由部28, 29を横方向外方へ展開させた後、テープタブ26を後胴周り域16の横方向中央に向かって引っ張り、テープタブ26の第2自由部29を後胴周り域16の外周（裏面シート12の外周）に止着する。自由部29を後胴周り域16に止着すると、テープタブ26の固定部27と自由部28, 29との間に延びる側部22の横方向の寸法を縮めることができるので、おむつ10Aの胴周り寸法Nを小さくすることが

できる。

【手続補正 7】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0030

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0030】

繊維不織布 41 の仕上用油剤の含有率が 0.04 wt % を超過すると、時間の経過とともに、仕上用油剤が接着剤の接着力を次第に低下させ、表面シート 11 と裏面シート 12 との接着強度が 0.15 N / 20 mm 未満になってしまう場合がある。表面シート 11 と裏面シート 12 との接着強度が 0.15 N / 25 mm 未満では、テープタブ 26 を横方向へ強く引っ張ったときに、それらシート 11, 12 どちらかが剥離する場合がある。それらシート 11, 12 が剥離すると、テープタブ 26 を引っ張る力が裏面シート 12 のみにかかり、裏面シート 12 が破損してしまう場合がある。表面シート 11 と裏面シート 12 との接着強度が 0.15 N / 25 mm 以上の場合、テープタブ 26 を横方向へ強く引っ張ったとしても、テープタブ 26 を取り付けた部位において表面シート 11 と裏面シート 12 とが剥離してしまうことはなく、さらに、テープタブ 26 を引っ張る力が表裏面シート 11, 12 に支えられるので、テープタブ 26 を横方向外方へ容易に展開させることができる。

【手続補正 8】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0031

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0031】

図 4, 5 は、他の一例として示すおむつ 10B の斜視図と、図 4 の 5-5 線端面図とである。図 4 では、横方向を矢印 L、縦方向を矢印 M で示すとともに、第 1 および第 2 自由部 28, 29 を前胴周り域 14 に止着した状態を二点鎖線で示す。図 5 では、テープタブ 26 の第 1 および第 2 自由部 28, 29 を矢印 L2 で示すおむつ 10B の横方向内方へ展開した状態を二点鎖線で示す。

【手続補正 9】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0034

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0034】

固定部 27 は、その内面が感圧性接着剤 30 を介して裏面シート 12 の外面に固着されている。第 1 自由部 28 は、固定部 27 の内端部分 27b において固定部 27 の外面の側に向かって折り曲げられている。第 1 自由部 28 は、固定部 27 の外面に重なり、その内面に塗布された止着手段としての感圧性接着剤 31 を介して固定部 27 の外面に剥離可能に仮着されている。第 2 自由部 29 は、第 1 自由部の外端部分 28a において第 1 自由部 28 の外面の側に向かって折り曲げられている。第 2 自由部 29 は、第 1 自由部 28 の外面に重なり、その内面に塗布された止着手段としての感圧性接着剤 32 を介して第 1 自由部 28 の外面に剥離可能に仮着されている。第 2 自由部 28 の内端部分 29b には、感圧性接着剤が塗布されていない摘み 33 が形成されている。感圧性接着剤 31, 32 は、第 1 自由部 28 の全体と第 2 自由部 29 の摘み 33 を除いた部分とにそれぞれ塗布されている。固定部 27 の外面全体と第 1 自由部 28 の外面全体とには、剥離剤（図示せず）が塗布されている。

【手続補正 10】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】 0 0 3 8

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【 0 0 3 8 】

繊維不織布 4 2 の仕上用油剤の含有率が不織布 4 2 を構成する繊維重量当たり 0 . 0 4 w t % 以下の場合、仕上用油剤による接着剤 3 0 の接着力の低下を防ぐことができ、おむつ 1 0 B を長期間放置したとしても、裏面シート 1 2 に対するテープタブ 2 6 の固定部 2 7 の接着強度の低下を防ぐことができる。おむつ 1 0 B は、それを温度 5 0 °C かつ湿度 6 0 % で 1 週間放置したとしても、テープタブ 2 6 の固定部 2 7 が裏面シート 1 2 に対して 4 N / 2 0 m m 以上の接着強度を有するので、おむつ 1 0 B を長期間放置した後に、テープタブ 2 6 を横方向へ強く引っ張って第 1 および第 2 自由部 2 8 , 2 9 を展開させたとしても、テープタブ 2 6 が裏面シート 1 2 の外面から剥がれてしまうことはない。

【手続補正 1 1】

【補正対象書類名】 明細書

【補正対象項目名】 0 0 5 3

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【 0 0 5 3 】

おむつ 1 0 C は、弾性部材 2 4 , 3 4 の収縮によってテープタブ 2 6 の固定部 2 7 に多数のギャザー 3 6 が形成されているので、図 1 のおむつ 1 A のようにテープタブ 2 6 の固定部 2 7 にギャザーが形成されていない場合と比較し、固定部 2 7 が裏面シート 1 2 から剥がれ易くなるが、固定部 2 7 が裏面シート 1 2 に対して 4 N / 2 0 m m 以上の接着強度を有するので、固定部 2 7 に多数のギャザー 3 6 が形成されたとしても、固定部 2 7 が裏面シート 1 2 の外面から剥がれてしまうことはない。

【手続補正 1 2】

【補正対象書類名】 明細書

【補正対象項目名】 0 0 6 3

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【 0 0 6 3 】

おむつ 1 0 D を着用者に装着する手順は、以下のとおりである。後胴周り域 1 6 の側部 2 2 内面を前胴周り域 1 4 の側部 2 0 外面に重ね合わせ、側部 2 2 を側部 2 0 に押し付ける。側部 2 2 を側部 2 0 に押し付けると、テープタブ 3 8 に形成されたフック 3 9 が裏面シート 1 2 を形成する不織布 4 2 の繊維に引っ掛かかり、テープタブ 3 8 が後胴周り域 1 6 の側部 2 2 内面に係合し、それら胴周り域 1 4 , 1 6 の側部 2 0 , 2 2 どうしを連結することができる。前後胴周り域 1 4 , 1 6 が連結されたおむつ 1 0 D には、図 1 0 に示すように、胴周り開口 1 7 と一対の脚周り開口 1 8 とが形成される。前後胴周り域 1 4 , 1 6 を連結した後、着用者の両脚を胴周り開口 1 7 から脚周り開口 1 8 へ通し、おむつ 1 0 D を着用者の胴部に引き上げる。

【手続補正 1 3】

【補正対象書類名】 明細書

【補正対象項目名】 0 0 7 0

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【 0 0 7 0 】

コア 1 3 は、粒子状または繊維状の高吸収性 ポリマー とフラッフパルプとの混合物、または、粒子状または繊維状の高吸収性 ポリマー とフラッフパルプと熱可塑性合成樹脂繊維との混合物であり、所定の厚みに圧縮されている。コア 1 3 は、その型崩れやポリマー粒子の脱落を防止するため、全体がティッシュペーパーや親水性繊維不織布等の透液性シートに被覆されていることが好ましい。ポリマー としては、デンプン系、セルロース系、

合成ポリマー系のものを使用することができる。

【手続補正 14】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0073

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0073】

図1, 4, 6のおむつ10A, 10B, 10Cのテープタブ26は、一本のテープタブを断面Z字型に折り畳んだものであるが、固定部27と第1および第2自由部28, 29とを別個のテープタブから形成し、それらテープタブを互いに連結した後、断面Z字型に折り畳んでもよい。それらおむつ10A, 10B, 10Cでは、テープタブ26が繊維不織布から形成されている場合、接着剤31, 32に代えて、第1および第2自由部28, 29の内面にメカニカルファスナのうちのフックが形成されていてもよい。また、図1, 4, 6のおむつ10A, 10B, 10Cでは、テープタブ26を後胴周り域16の両側部22に配置し、接着剤30を介してテープタブ26の固定部27を後胴周り域16における裏面シート12の外面に固着してもよい。それらおむつ10A, 10B, 10Cでは、縦方向へ延びる一つのテープタブ26を前後胴周り域14, 16のいずれか一方の横方向中央に配置し、接着剤30を介してテープタブ26の固定部27を裏面シート12の外面に固着してもよい。